

## 四街道知ってるか？（YOCCA NEWS 8 号）

昭和 3 年に手書きされた四街道の地図、それを見ていたデヴォンさんと YOCCA スタッフ。四街道周辺のお店の名前に興味津々。「このお店今もあるんじゃない？」デヴォンさんと白石夫妻の探検が始まった。

何年か前に、四街道の松並木通りについて調べていた時に、1928 年に手書きされた駅周辺の地図があることを知った。地図を見ていると、自転車屋さんが電車の踏切のすぐそばにあって、まさに今もそこには、自転車屋さんがある。ほかの YOCCA メンバーも地図を見て、ほかにもたくさんの商店が残っていることに気が付いた。－花屋、八百屋、木材店、本屋、そして金物屋。今回の“四街道知ってるか？”では白石暁、明子夫妻と私が一緒に駅周辺を歩き、商店の人々に話を聞き、そのあたりのことを話題にしてみたい。この話を選んだ根拠はあるものの、単にわかりやすいゴールに導かれるのだろうと最初は思っていた。しかし、実際にこの一つの記事に集約するのはとても難しいくらいのたくさんのことを学ぶことになった。私たちが学んだことをここに披露する。

武蔵野園芸（地図上では①：武蔵野割烹）

店に入った時、店主は（あとで彼はムサシノトシヒコ、と名乗り、店の 4 代目だと教えてくれた。）すぐに、何年か前に私がモミの木を買いに来たことを覚えていてくれた。仕事が忙しいにもかかわらず、私たちととても嬉しそうに話をしてくれて、彼からは面白い話をたくさん伺うことができた。まず、武蔵野はかつて料亭－高級日本料理の店だったということ。「当時は、四街道には 10 人くらいの芸者さんもいました。そして折りおり、お客様をおもてなししていたのです。」彼はそう言って、私たちにいくつか面白いものを見せたいと言って、店の背後に私たちを導いた。ひとつは大きな鉄の灯籠で、かつて、店の前にかけられていたものだった。もうひとつは、美しく彫られた木製の欄間（らんま）で、玄関口上部の梁を美しく飾っていたものだった。「これらのものは価値のあるものだと思います。ただ保存しておくのは残念です。どこか、たくさんの人の目に触れるところで、展示して楽しんでいただけないものでしょうか。」

石橋自転車店（地図上では②：石橋輪店）

思った通り、この自転車店は四街道駅の東側の踏切の南側に少なくとも 88 年の間、同じ場所にある。現在の店主はイシバシヒデカズさんで、4 代目ということだ。千葉の成東の方からやってきたという曾祖父が店をはじめたということだ。四街道駅は 2014 年に開業 120 周年のお祝いをしたが、石橋輪店は、開業の少しあとからそこにあるのではないかと私は思う。しかし、石橋さんは、詳しい開店年度はわからないという。

石山青果商店（地図上では③：石山青果商店）

白石氏がおもに店番の方と話をしてくれた。あまり話に気のはしなかったようだが、いくつか面白い話が聞けた。店の一部が、後に閉鎖になったかつての通り上にあった。そのかつての通りは、今でも店の正面の左手に細い通路として残っている。そして、店の背後には、小さな駐車場があるが、かつては、馬車が集まり、電車からの積み荷を載せて、町中へ配達に行ったとのことだ。

森材木店（地図上では④：森材木店）

私たちが様々な形の様々な種類の木がきれいに積み上げられている商店の前で、向こうで一生懸命仕事をしていると思われる人を邪魔してしまっていていいものかどうかかわからず、もたもたとしていると、横の方から男性がやってきて、にっこりと笑って、握手を求めてきた。あとで、彼はモリタケンと名乗り、3代目の店主だということだった。私は、彼の社交的な態度が一度に好きになった。彼に、地図に載っている“木々”の区画は、森なのか、果樹園なのかと尋ねると「ああ、あれは、かつて、子どもたちが遊んだ林ですよ。中には、栗の木もあったな。」と答えた。そして、彼は手招きして、私たちを南の方へ呼び、「ここらへんは田畠地でした、千葉までずっと、ある一族が持っていたのです。」そして、私たちの会話が終わる直前に彼は「もし、もっといろいろな情報が欲しいのなら、楠岡のおやじの所へ行って、話を聞けばいい。彼は何でも知っていますよ。」

クスオカイワオさん（87）は YOCCA のメンバーであり、地域で大変敬愛される重鎮の一人だ。私は、ムクロジの里を以前 YOCCA ニュースで取材させていただいた時に、インタビューをさせていただいたことがある。森さんが楠岡さんを“楠岡のおやじ”と言った時のそのざっくりとした感じが思わず私を笑顔にした。

大和屋書店（智雨情では⑤：大和屋書店）

私は、駅の右手にあった小さな本屋兼文具屋さんが、拡がる 7-11 の触手に屈したのかととても残念だったのだが、まだ、ちゃんとあって、駅の西側の線路沿いの小さな新しいビルに移っていることを知って嬉しかった。地図では大和屋は、また違う場所にあったが、それは、今の交番のあたりである。

店を訪ねると、カウンターには若い男性がいた。私は地図を見せて、だれかこれについてご存知の方はいませんかと尋ねた。彼は、背後の部屋から、紳士を呼んで来てくれた。彼はどうもお昼ご飯の最中だったようなのだが、地図を見ると、すぐにうれしそうな表情をして、私たちがご飯のただなかにお邪魔したことに対して全く動じた様子もなく、話をしてくださった。かれはワダヨシヒロさんといい、3代目店主ということだった。彼の印象は友好的で、温かく、そして大変知的にみえた。彼の専門は地図で、いくつか、私は大変興味深いことを教えてもらった。

現在の、西側の踏切と駅の間、線路沿いの道は、かつて、四街道を抜ける県道だった。しかし今あるように、道はロータリーのまえに敷き代えられ、かつてそこにあったビルや企業（店）は移動したとのことだ。彼自身も 1980 年代に四街道の道路改変前の地図を発行したことがあるそうで、親切に、その地図を一部くださった。

いくつか、ほかに面白いと思ったのは：四街道は、普通じゃないくらい多くの神社があるということ。その理由は、日本各地から集まってきた人々がふるさとから神社を連れてきて御まつりをしたからだそう。いったいもともとはどこの地方から来た神社なのか、というのを調べるのも、この企画の副産物として面白いことだと思う。

（ここで、YOCCA ニュース本体の以下の文章が抜けていました。お詫びして訂正いたします。）

**Also, after the war, what appears on the map as a field artillery school (野戦砲兵学校) became a branch of Chiba University, including a kindergarten, elementary school, and junior high school.**

また、地図の中で野戦砲兵学校とあったところは、戦後、幼稚園や小学校、中学校を含む千葉大学のキャンパスになった。

三河屋（地図上で⑥：三河屋氷室）

最後に訪ねたのは三河屋だ。北側の金物屋と、南側の家庭用品店ともに、特別に愛着があった。わたしが最初に四街道に引っ越してきた時に、こちらの店主は、すぐれた台所用のナイフを探していた私の終わりのない質問に答えてくださり、有用なアドバイスをくれた。また、何週にもわたった、お気に入りの本棚探しは最終的に三河屋で終わりを迎えた。そして店主は、私が、小さい息子にブランコを作ろうとしていた時には、私にコードレスドリルを貸してくれた。何が私の興味を引き付けたかって？何しろ、三河屋は、金物屋でも、家庭用品店でもなく、氷室だったのだから。

私たちは、午後の遅い時間に、金物屋側の店を訪ねた。店主は私のことを覚えていてくれた。彼はイトウエイチロウさん。3代目の店主とのことだ。彼の祖父が愛知県からやってきて店を開いたそうだ。そして、もともとは和菓子屋だったとのこと。兵士が饅頭やお菓子を買いに来たそうだ。そしてのちに氷屋になった。最初は軍に、それから、学校や病院へ納入することになった。

イトウさんは四街道についての記憶について語ってくれた。マップの、あるエリアを指しながら、「このエリアは昔、馬のための場所でした。それがそのうち私たちの学校の体育館になりました。このあたりでは、おもちゃにするための使用済みの弾丸探しによく行ったものです。」「正門からちゃんと学校へ通ったのですか？」「いえいえ、この小さな南門から通うほうが早いですからね。」「ベルの鳴る寸前に走りこんだのでしょ？」「もちろん。」

学校の敷地は鋭いとげをもつ柑橘系フルーツ、カラタチでもって、完璧な自然の防護壁となる生垣で囲まれていたという。その実りは、薬の成分として使われたり、アルコール飲料の香り付けなどに使われたりしていたそうだ。彼もまた、道路改変について話してくれた。そして、“曳家”（ひきや）について教えてくれた。曳家とは、“短距離の家屋移動屋”というべきか。町が道路を広げたいと思ったときに彼らは曳家を雇い、家屋を持ち上げ、何メートルか移動させる。

お別れを言う段になってイトウさんは、「妹さんは元気ですか？」とたずねてきた。最初はびっくりしたが、そのうち、妹が日本に来た時に、ブーツを修理するために、ちょうどいい種類の接着剤を探していて、イトウさんが彼女を助けてくれたことを思い出した。

白石暁さん、明子さん、ありがとう。たくさん情報を集めるのに多大なご協力をいただきました。そして、お店の皆様、私たちと話をするために時間を割いていただきありがとうございます。今私は、大きなプロジェクトのほんのさわりの部分をようやくスタートしたような気持ちです。もし、ワダさんが指摘して下さったように、四街道にある神社が日本全国の他の地から来たとしたら、いったいどこから来たのか？地図にあるほかの商売はどうか？かれらはどうなったのか？このマップは誰がなぜ作ったのか？そして、私たちの間で謎としてたくさん議論を重ねた、町の南西にあった線路のすぐ向こう側の“新富座劇場”。どういう種類の劇場だったのか？さらなる探究は次号以降の YOCCA NEWS で。

（お楽しみに。）